

4. 家族について

(1) 親からの家事・育児に対する手助け

問 4 2 【結婚している方に】現在、家事や育児の中で、親から手助けを受けていますか。
「a) あなたの父母」と「b) 配偶者の父母」のそれぞれについて、あてはまるものをいくつかでもお選びください。

【結婚していない方に】将来、結婚してからの家事や育児の中で、あなた自身の親からどのような手助けを受けられそうだと思いますか。あてはまるものをいくつかでもお選びください。

図表 4-1-1

〈自分の父母〉		特 に な い								(%)
		の 不 在 時 の 子 ど も	話 し 相 手 の 世 話 や	経 済 的 支 援	食 事 の 用 意	買 い 物 や 食 品 の	掃 除 ・ 洗 濯	そ の 他		
全 体	(n=6,327)	51.2	42.9	23.0	22.8	20.1	15.9	2.5	29.5	
男 性	(n=2,424)	46.2	40.2	24.4	21.5	17.8	15.5	1.5	32.4	
女 性	(n=3,852)	53.9	44.4	22.2	23.3	21.4	16.0	3.0	27.8	

〈配偶者の父母〉		特 に な い								(%)
		の 不 在 時 の 子 ど も	話 し 相 手 の 世 話 や	経 済 的 支 援	食 事 の 用 意	買 い 物 や 食 品 の	掃 除 ・ 洗 濯	そ の 他		
全 体	(n=3,500)	33.7	25.5	17.9	12.2	12.2	7.1	2.7	45.4	
男 性	(n=1,327)	38.5	28.6	17.8	14.9	15.4	8.6	1.8	41.4	
女 性	(n=2,150)	30.5	23.5	17.8	10.5	10.0	6.2	3.2	48.0	

自分自身と配偶者の親から、現在、家事や育児の中で手助けを受けているかを聞き、親がいて、未婚者の場合は結婚の意思のある者に限って集計した（図表 4-1-1）。

自分の父母からの手助けとしては、「不在時の子どもの預かり」が 51.2%で最も多く、「子どもの世話や話し相手」が 42.9%で続いている。

男女別にみると（図表 4-1-1・上）、「不在時の子どもの預かり」（男性 46.2%、女性 53.9%）は男性より女性に多くあげられている。

一方、配偶者の父母からの援助としても（図表 4-1-1・下）、「不在時の子どもの預かり」（33.7%）と「子どもの世話や話し相手」（25.5%）が上位にあげられているが、「経済的援助」以外は、すべての項目で男性が女性を上回り、夫の方が配偶者（妻）の父母の援助をより多く受けていると考えられる。

〈参考：全国調査〉

全国調査で、自分自身の親からの手助けをみると、「不在時の子どもの預かり」が 55.7%で最も多く、次いで「子どもの世話や話し相手」が 46.6%となっている。

男女別にみると、「不在時の子どもの預かり」は女性で 61.0%と、特に多くなっている。

一方、配偶者の親からの手助けでも「不在時の子どもの預かり」(36.3%)と「子どもの世話や話し相手」(27.6%)が上位にあげられているが、自分の親より回答率が低い。

全国調査でも、男性の方が多くあげていることから、妻の親の手助けをより多く受けていると考えられる。

自分の父母からの手助けについての結果を府民調査と比較すると、男性では「食事の用意」が、女性では「不在時の子どもの預かり」が、それぞれ全国調査の方が多くあげられている。

配偶者の親からの手助けの状況を府民調査と比較しても、大きな差はみられない。

参考 4-1 親からの家事・育児に対する手助け

〈自分の父母〉

(%)

		不在時の 子どもの 預かり	子どもの 世話や 話し相手	食事の 用意	日用品 や食品の 買い物	経済的 支援	掃除・ 洗濯	その他	特に ない
全 体	(n=1,072)	55.7	46.6	27.1	23.9	23.5	18.8	2.1	26.6
男 性	(n=485)	49.3	42.9	27.2	22.1	26.2	19.2	1.9	29.9
女 性	(n=587)	61.0	49.7	27.1	25.4	21.3	18.4	2.2	23.9

〈配偶者の父母〉

(%)

		不在時の 子どもの 預かり	子どもの 世話や 話し相手	経済的 支援	日用品 や食品の 買い物	食事の 用意	掃除・ 洗濯	その他	特に ない
全 体	(n=604)	36.3	27.6	17.1	12.6	12.3	7.0	2.6	45.4
男 性	(n=275)	42.2	32.4	17.8	17.5	15.6	7.3	2.9	40.0
女 性	(n=329)	31.3	23.7	16.4	8.5	9.4	6.7	2.4	49.8

自分の父母からの手助けを性・年代別にみると（図表 4-1-2）、男女とも未婚者が 9 割以上を占める 20～24 歳では「不在時の子どもの預かり」（男性 74.8%、女性 72.0%）と「子どもの世話や話し相手」（同 65.2%、72.4%）が際立って多くあげられているほか、いずれの項目も他の年代より多く、将来の手助けとしての父母への期待が表れている。

男女とも年代が高くなると、受けている手助けが少なくなるが、女性は 30 歳代までは 7 割以上の者が何らかの手助けを受けている。

図表 4-1-2 自分の父母からの家事・育児に対する手助け（性・年代別）

			の 不 預 在 か 時 り の 子 ども		話 子 し ども 相 手 の 世 話 や		経 済 的 支 援		食 事 の 用 意		買 日 い 用品 物 品 や 食 品 の		掃 除 ・ 洗 濯		そ の 他		特 に な い		(%)
全 体 (n=6,327)			51.2	42.9	23.0	22.8	20.1	15.9	2.5	29.5									
男 性	20 ～ 24 歳 (n=338)	74.8	65.2	33.7	30.2	28.4	23.9	1.3	8.9										
	25 ～ 29 歳 (n=335)	53.9	48.0	31.9	22.6	19.5	16.0	1.0	24.1										
	30 ～ 34 歳 (n=482)	42.2	39.8	19.1	20.2	17.0	14.3	1.9	37.5										
	35 ～ 39 歳 (n=585)	40.5	35.4	22.3	18.4	15.1	11.6	1.6	37.8										
	40 ～ 44 歳 (n=673)	35.2	27.8	20.9	20.5	14.6	15.7	1.6	40.4										
女 性	20 ～ 24 歳 (n=458)	72.0	72.4	27.2	37.2	35.3	29.4	2.3	10.1										
	25 ～ 29 歳 (n=619)	64.3	56.1	24.3	28.7	32.0	20.4	2.6	17.4										
	30 ～ 34 歳 (n=768)	52.8	46.2	21.3	23.7	19.9	14.3	3.4	28.8										
	35 ～ 39 歳 (n=968)	50.7	39.1	22.3	19.6	18.3	13.8	3.6	29.4										
	40 ～ 44 歳 (n=1,032)	43.0	28.0	19.2	16.8	12.5	10.5	2.9	40.1										

配偶者の父母からの手助けについて性・年代別にみると（図表 4-1-3）、「不在時の子どもの預かり」は 35～44 歳の男性（35～39 歳 42.4%、40～44 歳 39.7%）を 4 割があげている。また、「子どもの世話や話し相手」は男女とも 25～39 歳の年代層で多く、長子の平均年齢が 10 歳以上となる男性の 40～44 歳では少なくなっている。

図表 4-1-3 配偶者の父母からの家事・育児に対する手助け（性・年代別）

(%)

		の不在 預かり 時の 子ども	話子ども し相手の 世話や	経 済 的 支 援	食 事 の 用 意	買 日 用 品 や 食 品 の	掃 除 ・ 洗 濯	そ の 他	特 に な い
全	体 (n=3,500)	33.7	25.5	17.9	12.2	12.2	7.1	2.7	45.4
男 性	20～24 歳 (n=9)	43.5	42.8	48.5	45.8	35.5	53.1	—	22.0
	25～29 歳 (n=99)	28.1	27.8	22.7	15.2	25.1	4.3	—	41.0
	30～34 歳 (n=279)	32.9	29.1	17.6	13.8	16.3	7.0	2.6	47.7
	35～39 歳 (n=429)	42.4	31.3	15.7	16.8	13.4	10.3	1.8	38.3
	40～44 歳 (n=506)	39.7	25.6	18.3	13.3	14.4	8.3	1.8	41.5
女 性	20～24 歳 (n=36)	25.3	42.1	28.1	20.9	28.9	14.5	5.9	29.6
	25～29 歳 (n=219)	29.0	28.2	18.1	17.3	18.4	9.2	4.1	45.9
	30～34 歳 (n=478)	31.7	28.0	21.0	12.8	11.9	5.7	3.2	41.1
	35～39 歳 (n=670)	31.4	24.0	17.9	10.3	9.9	5.8	3.1	46.9
	40～44 歳 (n=744)	29.3	17.4	14.9	6.8	5.5	5.5	2.8	55.3

自分の父母からの手助けを性・地域別にみると（図表 4-1-4）、男女とも相楽東部居住者は、自分の父母からの手助けを多く受けている。また、女性では、「不在時の子どもの預かり」は、相楽東部（69.2%）と山城北地域（65.0%）の居住者で、「子どもの世話や話し相手」は相楽東部居住者（60.9%）で 6 割以上となっている。

図表 4-1-4 自分の父母からの家事・育児に対する手助け（性・地域別）

(%)

			不在時の 子どもの 預かり	子どもの 世話や 話し相手	経済的 支援	食事の 用意	日用品や 食品の 買い	掃除・ 洗濯	その他	特 に な い
全	体 (n=6,327)		51.2	42.9	23.0	22.8	20.1	15.9	2.5	29.5
男 性	京 都 市 (n=729)		42.6	37.7	24.3	18.9	15.1	13.0	1.5	34.6
	丹 後 (n=305)		62.1	52.0	23.7	30.8	18.7	21.1	2.1	21.8
	中 丹 (n=203)		50.8	41.5	21.1	23.3	16.8	18.5	0.6	28.2
	南 丹 (n=205)		51.6	52.4	32.3	28.5	25.1	26.4	0.3	23.8
	乙 訓 (n=203)		46.0	42.0	18.9	26.5	21.5	13.6	1.6	34.6
	学 研 都 市 (n=227)		42.3	37.4	25.0	23.3	18.5	14.8	0.8	36.9
	相 楽 東 部 (n=127)		58.2	55.5	33.6	38.7	29.2	34.2	1.5	18.1
	山 城 北 (n=395)		52.3	41.7	24.7	21.8	23.2	18.9	2.9	28.9
女 性	京 都 市 (n=1,271)		50.3	42.7	24.0	23.2	20.8	16.8	2.8	30.9
	丹 後 (n=366)		54.6	46.8	17.8	28.8	17.5	17.9	5.3	22.6
	中 丹 (n=311)		54.9	48.6	18.1	25.0	20.9	18.4	3.0	23.7
	南 丹 (n=316)		57.8	49.6	20.2	28.7	24.4	19.3	2.7	21.5
	乙 訓 (n=369)		56.4	44.3	21.6	23.4	26.4	17.3	3.4	24.4
	学 研 都 市 (n=403)		53.8	41.7	17.1	19.8	19.2	13.6	1.7	29.6
	相 楽 東 部 (n=203)		69.2	60.9	28.9	28.3	26.9	23.4	1.5	13.4
	山 城 北 (n=584)		65.0	47.6	19.9	21.4	21.2	10.4	4.4	21.5

配偶者の親からの手助けについては（図表 4-1-5）、「不在時の子どもの預かり」と「子どもの世話や話し相手」は、男性の南丹居住者（預かり 61.7%、世話等 41.6%）と女性の丹後居住者（同 50.7%、38.1%）の居住者に多くあげられている。また、「食事の用意」は、女性の丹後（30.4%）と相楽東部（29.3%）の各居住者に多くあげられている。

図表 4-1-5 配偶者の父母からの家事・育児に対する手助け（性・地域別）

(%)

			不在時の 子どもの 預かり	子どもの 世話や 話し相手	経済的 支援	食事の 用意	日用品や 食品の 買い物	掃除・ 洗濯	その他	特 に な い
	全 体 (n=3,500)		33.7							
男 性	京 都 市 (n=429)		35.4							
	丹 後 (n=159)		49.0							
	中 丹 (n=126)		37.0							
	南 丹 (n=101)		61.7							
	乙 訓 (n=115)		37.8							
	学 研 都 市 (n=156)		40.7							
	相 楽 東 部 (n=53)		47.3							
	山 城 北 (n=182)		42.5							
女 性	京 都 市 (n=670)		27.0							
	丹 後 (n=235)		50.7							
	中 丹 (n=187)		37.9							
	南 丹 (n=168)		31.5							
	乙 訓 (n=210)		33.9							
	学 研 都 市 (n=261)		27.9							
	相 楽 東 部 (n=81)		43.4							
	山 城 北 (n=319)		36.0							

自分の父母からの手助けを性・子どもの人数別にみると（図表 4-1-6）、子どものいない層では婚姻状況による差が大きく、未婚者は男女とも自分の父母の手助けに対する期待が大きいのに対して、子どものいない既婚者で実際に手助けを受けている者は少なく、男女とも「特にない」（男性 71.8%、女性 58.7%）が多数を占めている。

子供のいる層では、男女とも子どもの人数が多いほど「不在時の子どもの預かり」が多くあげられている。一方、「子どもの世話や話し相手」は、女性の子どもの人数が少ない者ほど多くあげられている。

図表 4-1-6 自分の父母からの家事・育児に対する手助け（性・子どもの人数別）

(%)

			不在時の 子どもの 預かり	子どもの 世話や 話し相手	経済的 支援	食事の 用意	日用品 や食品の 買い物	掃除・ 洗濯	その他	特 に な い
全	体	(n=6,327)	51.2	42.9	23.0	22.8	20.1	15.9	2.5	29.5
男 性	子ども いない	未婚 (n=1,014)	67.5	62.3	27.6	32.7	26.5	26.6	0.8	14.5
		既婚 (n=242)	8.8	6.7	11.7	9.0	8.3	4.8	3.0	71.8
	子ども 1 人 (n=349)		28.8	27.6	23.1	13.4	14.0	6.7	1.5	45.2
	2 人 (n=517)		37.2	27.8	25.2	12.3	10.3	6.6	1.5	36.5
	3 人以上 (n=213)		43.0	26.3	22.2	14.0	9.2	7.7	2.4	37.2
女 性	子ども いない	未婚 (n=1,253)	72.0	65.0	23.8	35.2	31.9	26.7	1.4	13.3
		既婚 (n=399)	12.7	9.2	16.9	14.5	16.0	7.5	5.6	58.7
	子ども 1 人 (n=665)		48.0	42.5	20.8	19.5	19.3	11.3	2.6	34.1
	2 人 (n=998)		51.7	37.3	22.4	16.1	13.1	8.8	3.8	28.9
	3 人以上 (n=426)		52.6	32.4	23.7	15.1	13.4	12.1	3.9	31.7

配偶者の父母からの手助けについては（図表 4-1-7）、男女とも子どものいない層では約 7 割が「特
にない」（男性 70.9%、女性 68.9%）と回答している。

子供のいる層では、「不在時の子どもの預かり」は、男女とも子どもの人数が多いほど多くあげられ
ている。また、「子どもの世話や話し相手」は、男性では子どもの少ない層に、女性では子どもの多い
層に、それぞれ多くあげられている。

図表 4-1-7 配偶者の父母からの家事・育児に対する手助け（性・子どもの人数別）

(%)

		の不在 預かり の子ども	話子ども し相手の 世話や	経 済 的 支 援	食 事 の 用 意	買日用品 い物 や食品の	掃 除 ・ 洗 濯	そ の 他	特 に な い
全	体 (n=3,500)	33.7	25.5	17.9	12.2	12.2	7.1	2.7	45.4
男 性	子どもはいない (n=230)	2.0	1.3	14.6	11.6	9.8	5.5	1.8	70.9
	子ども 1 人 (n=342)	40.0	35.8	18.9	14.7	18.3	8.2	3.2	37.5
	2 人 (n=526)	50.4	35.8	18.2	17.9	17.5	10.9	1.4	32.9
	3 人 以 上 (n=216)	54.1	30.7	16.4	11.8	11.4	5.9	0.3	33.2
女 性	子どもはいない (n=344)	5.1	5.0	12.5	7.6	11.5	4.5	5.0	68.9
	子ども 1 人 (n=541)	29.2	25.5	18.7	13.4	9.0	5.0	2.7	47.6
	2 人 (n=857)	37.4	26.7	17.8	9.4	9.7	6.2	2.5	43.4
	3 人 以 上 (n=383)	43.5	31.6	22.0	10.9	10.1	9.0	3.7	35.9

性・親の居住地別に自分の父母からの手助けの有無をみると（図表 4-1-8・上）、男女とも親の居住地との距離が近いほど様々な手助けを受けており、特に親との同居者はすべての項目にわたって、近居や別居の者より多くの手助けを受けており、男女差はみられない。

親と片道 30 分以上の場所に別居している者では、5 割前後が自分の父母からの手助けを受けていない（「特にない」男性 52.9%、女性 47.1%）。

配偶者の父母からの手助けは（図表 4-1-8・下）、親の居住地との距離が近いほど、「経済的支援」も含めた様々な手助けを受けており、特に同居者は 7 割以上が何らかの手助けを受けている。一方、親と別居している者は、男性が妻の親に「不在時の子どもの預かり」（22.6%）で助けてもらっている以外は、「経済的支援」（男性 12.2%、女性 13.3%）と「子どもの世話や話し相手」（同 12.5%、10.0%）の手助けで 1 割程度にとどまっている。

図表 4-1-8 親からの家事・育児に対する手助け（性・親の居住地別）

(%)

〈自分の父母〉

			不在 か 時 り の 子 ど も	話 し ど も の 世 話 や	経 済 的 支 援	食 事 の 用 意	買 日 用 品 や 食 品 の	掃 除 ・ 洗 濯	そ の 他	特 に な い
全	体	(n=6,327)	51.2	42.9	23.0	22.8	20.1	15.9	2.5	29.5
男	同	居 (n=1,161)	67.6	64.8	27.2	40.3	30.2	31.8	1.3	12.2
性	近	居 (n=658)	37.1	26.8	23.1	11.0	12.4	4.7	1.1	36.5
	別	居 (n=602)	29.2	23.4	22.3	8.6	8.0	6.0	2.2	52.9
女	同	居 (n=1,607)	70.7	63.7	23.9	37.3	31.5	29.3	2.4	13.6
性	近	居 (n=1,223)	56.8	41.4	22.1	19.0	18.7	7.6	2.9	24.8
	別	居 (n=1,015)	31.7	25.4	20.5	11.8	12.3	9.2	3.9	47.1

(%)

〈配偶者の父母〉

			不在 か 時 り の 子 ど も	話 し ど も の 世 話 や	経 済 的 支 援	食 事 の 用 意	買 日 用 品 や 食 品 の	掃 除 ・ 洗 濯	そ の 他	特 に な い
全	体	(n=3,500)	33.7	25.5	17.9	12.2	12.2	7.1	2.7	45.4
男	同	居 (n=284)	48.5	51.9	28.1	30.1	26.9	26.6	0.3	22.9
性	近	居 (n=648)	46.6	33.0	18.7	17.5	17.9	6.2	1.6	31.9
	別	居 (n=395)	22.6	12.5	12.2	4.8	7.2	4.6	2.8	62.7
女	同	居 (n=530)	52.8	48.1	25.0	30.6	24.3	25.9	2.4	25.5
性	近	居 (n=954)	36.0	24.1	18.3	8.9	8.7	2.0	2.8	41.1
	別	居 (n=664)	12.0	10.0	13.3	2.4	4.5	1.4	4.0	68.2

(2) 親の居住地

問 4 3 あなたの親は、どちらにお住まいですか。「a) あなたの父親」～「d) 配偶者の母親」のそれぞれについて、よく使う交通手段で片道にかかる時間を、それぞれ 1 つずつお選びください。

図表 4-2-1

												(%)
<自分の父>		同じ建物内	同じ敷地内の別棟	15分未満	15～30分未満	30～60分未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3時間以上	該当する親がいない	無回答	
全 体	(n=7,593)	23.6	1.3	10.7	7.9	7.8	9.6	6.4	14.0	14.5	4.2	
男 性	(n=2,996)	25.5	1.9	10.2	7.4	7.1	8.9	5.6	14.3	14.2	4.8	
女 性	(n=4,519)	22.4	0.9	11.1	8.2	8.3	10.1	7.0	13.8	14.5	3.7	

												(%)
<自分の母>		同じ建物内	同じ敷地内の別棟	15分未満	15～30分未満	30～60分未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3時間以上	該当する親がいない	無回答	
全 体	(n=7,593)	28.1	1.6	12.3	9.1	8.4	10.6	7.2	14.3	5.3	3.1	
男 性	(n=2,996)	30.5	2.1	11.8	8.5	7.9	10.0	6.0	14.2	5.6	3.6	
女 性	(n=4,519)	26.5	1.3	12.6	9.6	8.8	11.0	8.1	14.4	5.2	2.6	

												(%)
<配偶者の父>		同じ建物内	同じ敷地内の別棟	15分未満	15～30分未満	30～60分未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3時間以上	該当する親がいない	無回答	
全 体	(n=4,357)	3.9	2.8	14.4	11.4	12.4	12.4	6.3	15.7	16.9	3.8	
男 性	(n=1,591)	2.3	1.2	15.1	11.6	14.5	13.8	6.0	17.1	14.4	4.0	
女 性	(n=2,733)	4.9	3.8	14.0	11.3	11.1	11.5	6.5	15.0	18.2	3.6	

												(%)
<配偶者の母>		同じ建物内	同じ敷地内の別棟	15分未満	15～30分未満	30～60分未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3時間以上	該当する親がいない	無回答	
全 体	(n=4,357)	5.8	3.5	17.1	12.8	13.6	14.3	7.0	16.9	6.9	2.2	
男 性	(n=1,591)	4.0	1.5	17.8	12.8	15.1	15.3	6.6	18.4	6.3	2.2	
女 性	(n=2,733)	6.8	4.6	16.7	13.0	12.7	13.6	7.2	16.1	7.2	2.1	

自分と配偶者の親の居住地を聞いた（図表 4-2-1）。

自分の父親は、「同じ建物内」が 23.6%で、「同じ敷地内の別棟」（1.3%）を合わせると、4 人に 1 人が『同居』（24.9%）している。「15 分未満」（10.7%）と「15～30 分未満」（7.9%）を合わせた『近居』（18.6%）は約 2 割、片道 30 分以上の距離に居住する『別居』は 37.8%である。

自分の母親は、『同居』（29.7%）が約 3 割、『近居』（21.4%）は 2 割超で、片道 30 分以上の距離に居住する『別居』は 40.5%である。

配偶者の父は、『同居』（6.7%）が 1 割弱、『近居』（25.8%）は 2 割台で、半数近くが片道 30 分以上の距離に居住する『別居』（46.8%）である。

配偶者の母は、『同居』（9.3%）が約 1 割、『近居』（29.9%）は 3 割で、5 割以上が片道 30 分以上の距離に居住する『別居』（51.8%）である。

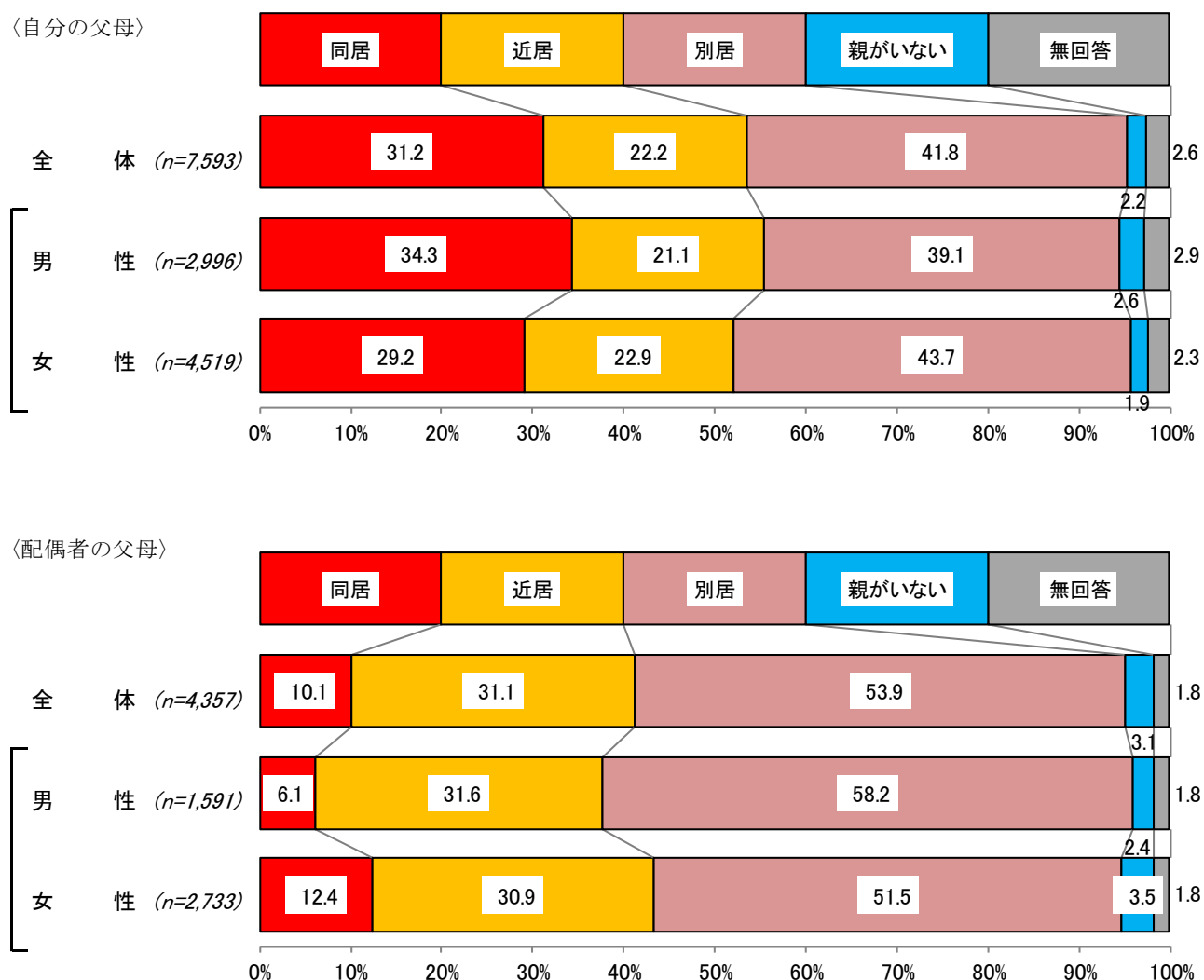
自分の父母と配偶者の父母にわけて、同別居の状況をまとめたところ、自分の父母のいずれかが「同じ建物内」もしくは「同じ敷地内の別棟」に『同居』している者は 31.2%、片道 30 分未満の距離に『近居』している者は 22.2%、片道 30 分以上の距離で『別居』している者は 41.8%である(図表 4-2-2・上)。

男女別にみると(図表 4-2-2・上)、自分の父母との『同居』(男性 34.3%、女性 29.2%)は女性より男性が 5 ポイント上回っている。『近居』に男女差はみられない。

一方、配偶者の父母の場合は(図表 4-2-2・下)、『同居』が 10.1%、『近居』が 31.1%、『別居』が 53.9%となっている。

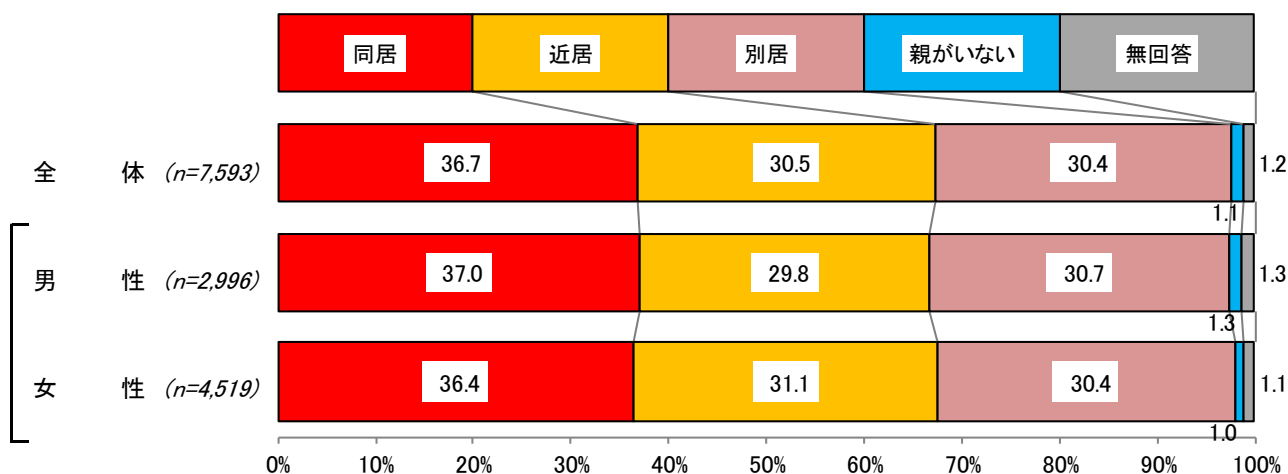
男女別にみると(図表 4-2-2・下)、『同居』(男性 6.1%、女性 12.4%)は女性が男性を 6 ポイント上回り、夫の親との同居が多くなっている。

図表 4-2-2 親の居住地



さらに自分と配偶者の親をまとめて、いずれかの親との同別居の状況をまとめたところ(図表 4-2-3)、
『同居』は 36.7%、『近居』は 30.5%、『別居』は 30.4%である。
男女別にみても(図表 4-2-3)、差はみられない。

図表 4-2-3 親の居住地



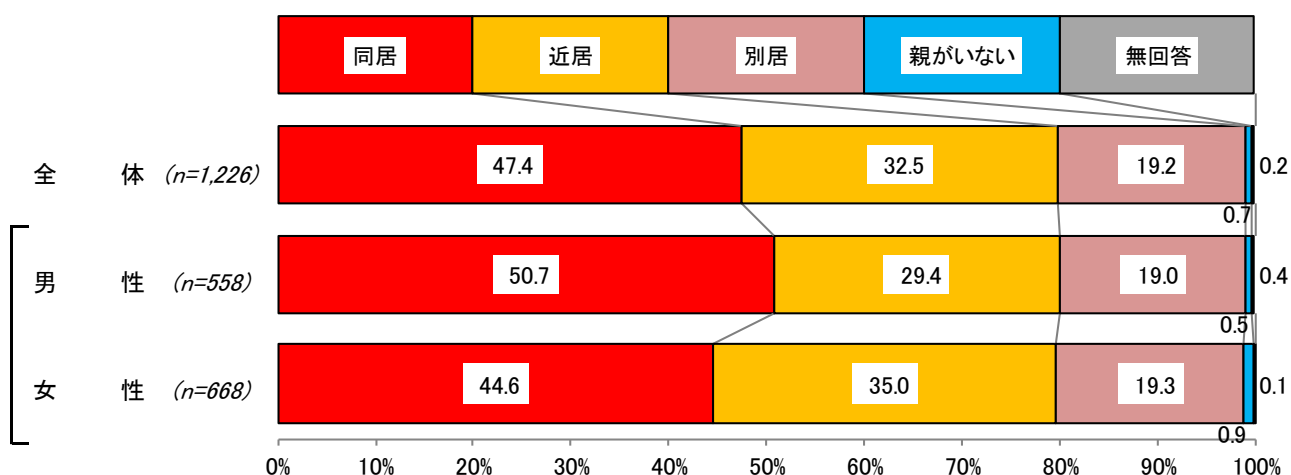
〈参考：全国調査〉

全国調査では、自分もしくは配偶者のいずれかの親と「同居」(47.4%)している者が半数近く、女性(44.6%)より男性(50.7%)にやや多い。

『近居』は 32.5%、『別居』は 19.2%である。

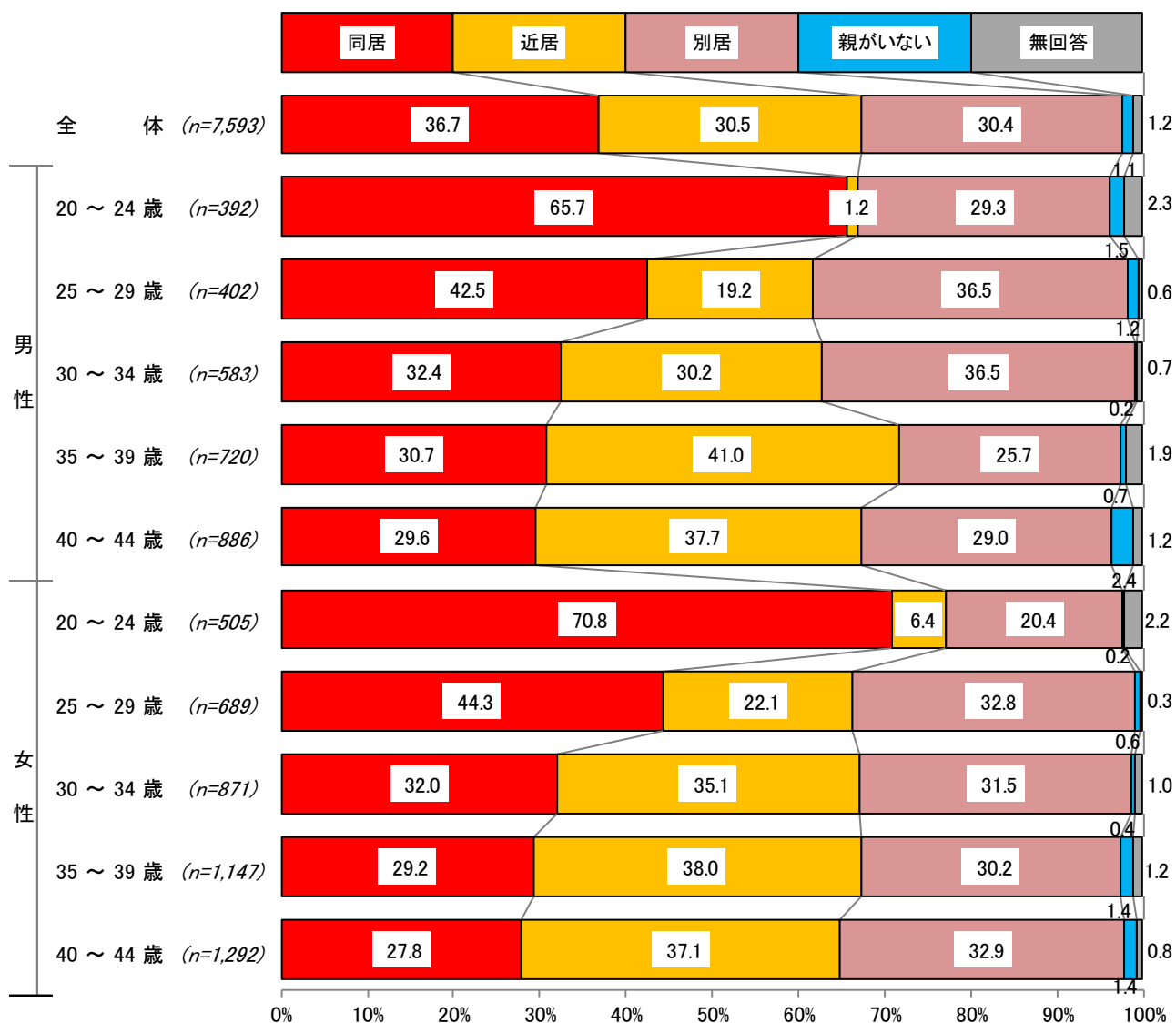
府民調査と比較すると、『同居』は、男女とも全国調査が府民調査を上回り、特に男性では、14 ポイントの開きがある。代わりに、府民調査では男女とも『別居』が、全国調査を 10 ポイント以上上回って、多くなっている。

参考 4-2 親の居住地



性・年代別にみると（図表 4-2-4）、男女とも 20 歳代では『同居』が最も多く、特に 20～24 歳の年代では男性の 65.7%、女性の 70.8%が親と同居している。女性は 30 歳以上になると『近居』が最も多くなるが、男性は 30～34 歳で『別居』（36.5%）が最も多くなり、35 歳以上で『近居』が多くなる。

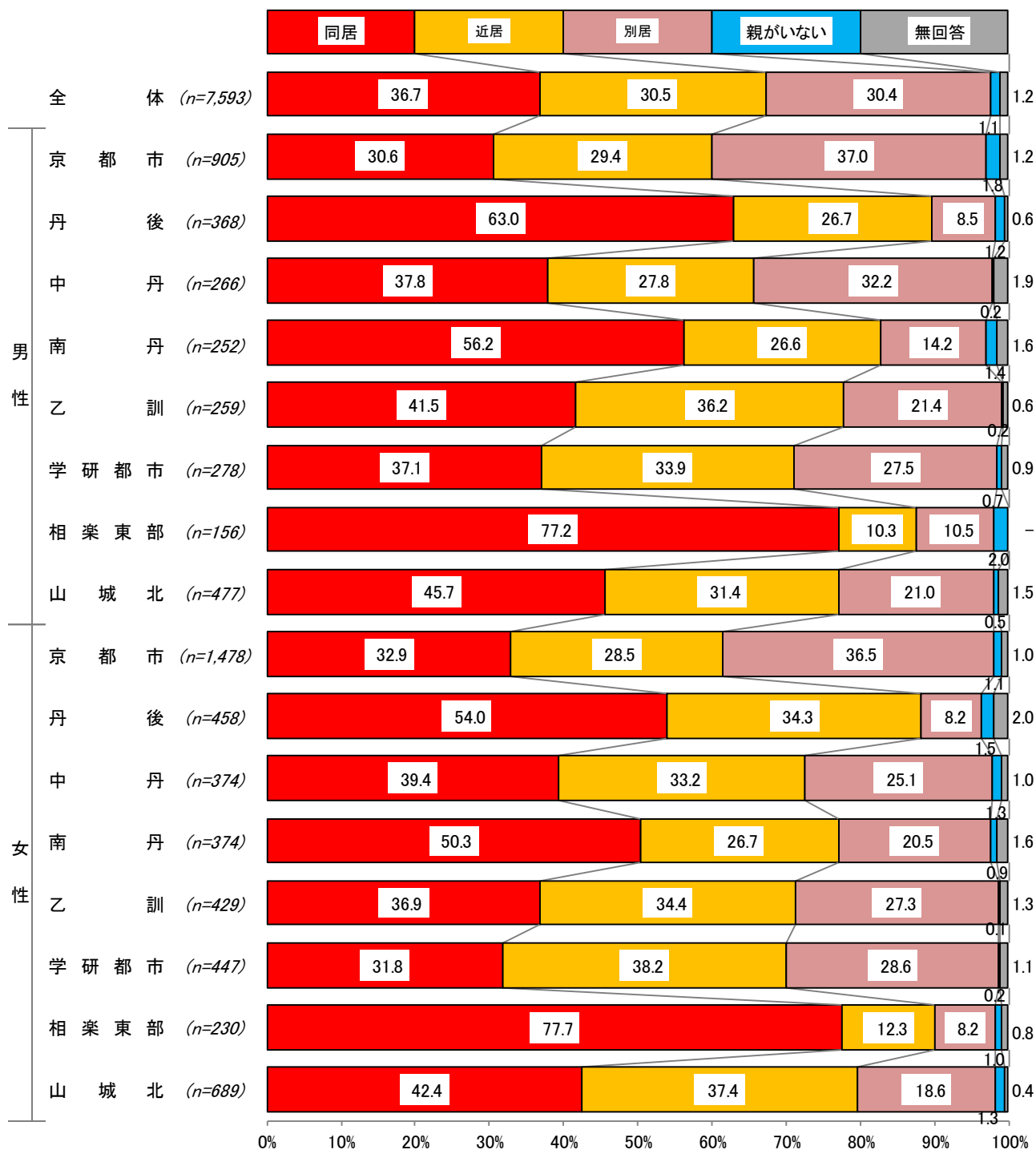
図表 4-2-4 親の居住地（性・年代別）



性・地域別にみると（図表 4-2-5）、男女とも相楽東部では 8 割近くが『同居』（男性 77.2%、女性 77.7%）している。また、男女とも丹後（同 63.0%、54.0%）と南丹（同 56.2%、50.3%）でも『同居』が半数を上回っている。一方、『近居』は、男性の乙訓居住者（36.2%）と女性の学研都市居住者（38.2%）で多くなっている。

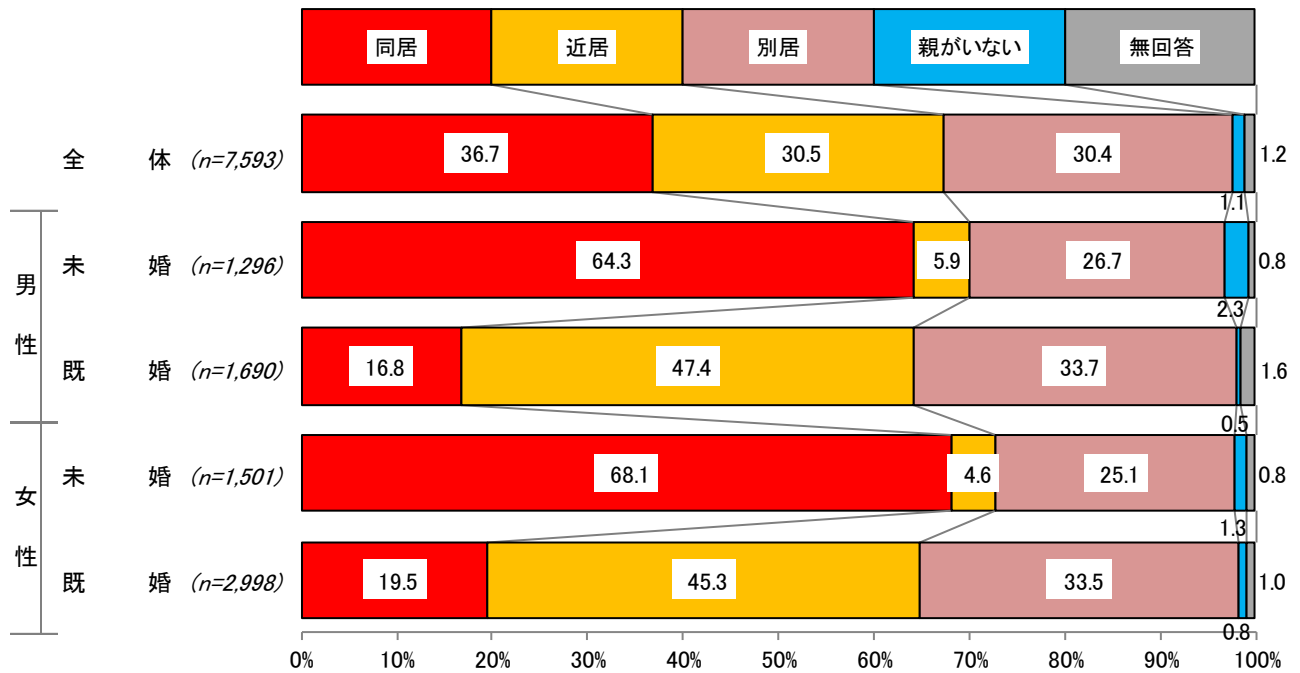
『別居』は、男女とも京都市居住者（男性 37.0%、女性 36.5%）の 4 割近くを占めている。

図表 4-2-5 親の居住地（性・地域別）



性・婚姻状況別にみると（図表 4-2-6）、既婚者は、男女とも半数近くが『近居』（男性 47.4%、女性 45.3%）している。一方、未婚者では『同居』（男性 64.3%、女性 68.1%）が 6 割を上回っている。

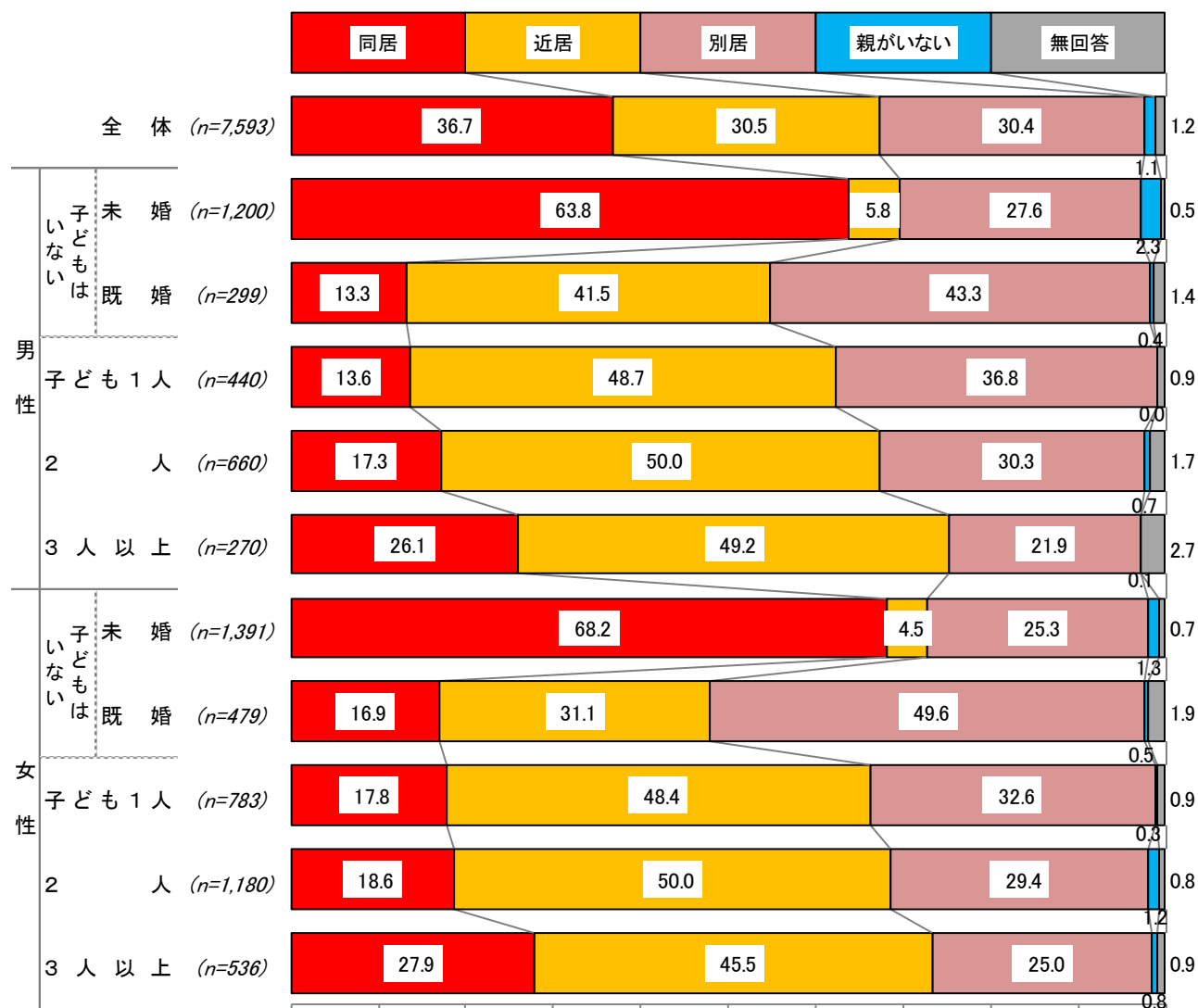
図表 4-2-6 親の居住地（性・婚姻状況別）



性・子どもの人数別にみると（図表 4-2-7）、子どものいない未婚者は、男女とも 6 割以上が親と『同居』（男性 63.8%、女性 68.2%）している。これに対して、子どものいない既婚者は、いずれの親とも『別居』（同 43.3%、49.6%）という者が多くなっている。

子どもが 3 人以上の者は 3 割近くが『同居』（男性 26.1%、女性 27.9%）している。

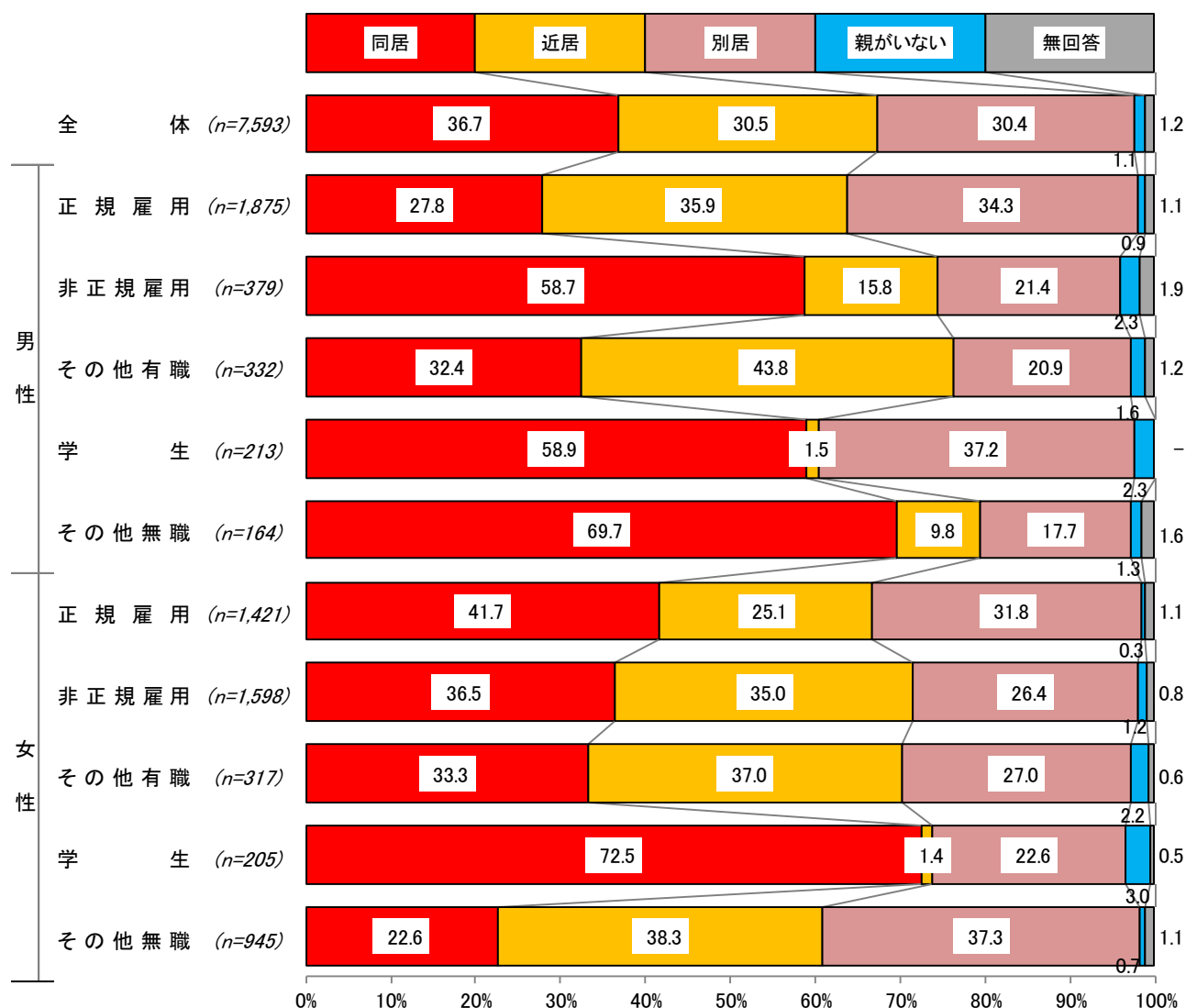
図表 4-2-7 親の居住地（性・子どもの人数別）



性・就労状況別にみると（図表 4-2-8）、学生は、男女とも親との『同居』（男性 58.9%、女性 72.5%）が多数を占め、特に女子学生では 7 割を上回っている。

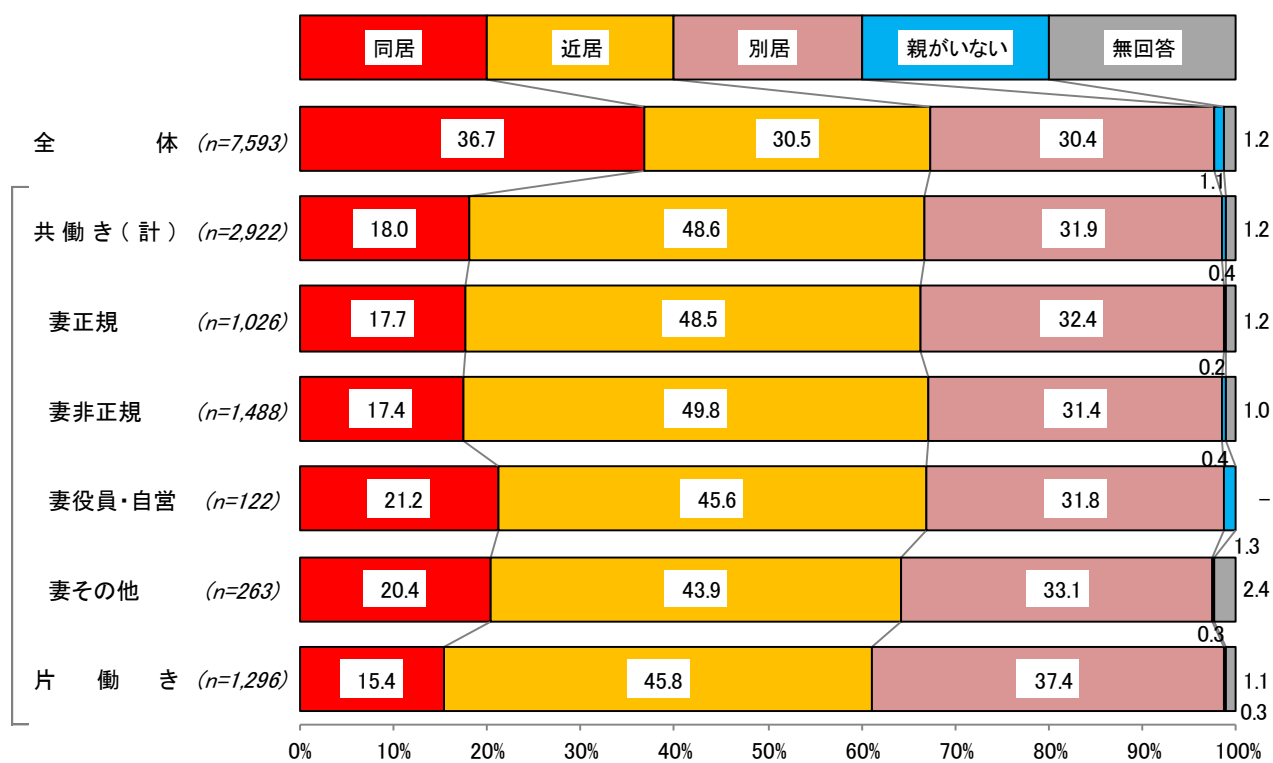
一方、非正規雇用者と学生以外のその他無職層は、女性では既婚有配偶者が多いため、親の居住地についての回答が分散しているが、男性は未婚者が多いため、親との『同居』（非正規 58.7%、その他無職 69.7%）が多くなっている。

図表 4-2-8 親の居住地（性・就労状況別）



共働き状況別にみると（図表 4-2-9）、妻の働き方による大きな差はみられないが、片働きの場合に『別居』（37.4%）が 4 割近くと、やや多くなっている。

図表 4-2-9 親の居住地（共働き状況別）



(3) 親との同居理由

【親のいずれかと同居または近居している方（問43で「1」～「4」と回答した方）にお聞きします。】

問44 あなたが親と同居または近居しているのはなぜですか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

なお、「近居」には、30分未満の距離で同じ敷地内の別棟を含みます。

図表 4-3-1 (%)

		遠くに 住む必要 性を感 じない から	住宅費 を節約 するた め	食事や 光熱費 を節約 するた め	子育て の支援 を受け るため	親が好 きだか ら	親を介 護する ため	家事を 分担す るため	その他	無回 答
全 体	(n=5,547)	53.2	22.2	19.0	18.2	14.7	9.9	4.6	6.2	12.6
男 性	(n=2,204)	52.5	22.3	20.7	15.2	9.5	10.5	4.1	5.0	13.5
女 性	(n=3,291)	53.8	21.8	17.7	20.2	18.0	9.5	4.9	6.9	12.1

親のいずれかと同居または近居している者（5,547 人）が親と同居また近居している理由としては（図表 4-3-1）、「遠くに住む必要性を感じないから」が 53.2%で目立って多く、以下「住宅費を節約するため」(22.2%)、「食事や光熱費を節約するため」(19.0%)、「子育ての支援を受けるため」(18.2%)、「親が好きだから」(14.7%) の順となっている。

男女別にみると（図表 4-3-1）、「子育ての支援を受けるため」（男性 15.2%、女性 20.2%）と「親が好きだから」（同 9.5%、18.0%）は、男性より女性に多くあげられている。

〈参考：全国調査〉

全国調査で、親のいずれかと同居または近居している者（979 人）の理由をみると、「遠くに住む必要性を感じないから」（58.6％）が 6 割近く、次いで「住宅費を節約するため」（26.5％）と「食事や光熱費を節約するため」（24.8％）が 3 割近くとなっている。

男女別にみると「住宅費を節約するため」（男性 32.0％、女性 21.8％）と「食事や光熱費を節約するため」（同 29.8％、20.7％）は女性より男性に、「子育ての支援を受けるため」（同 13.9％、21.1％）と「親が好きだから」（同 8.5％、19.5％）は男性より女性に、それぞれ多くあげられている。

府民調査と比較すると、男女とも「遠くに住む必要性を感じないから」は、全国調査で府民調査よりやや多くあげられている。また、全国調査の男性では、「住宅費を節約するため」と「食事や光熱費を節約するため」が、府民調査を上回って多くあげられている。

参考 4-3 親との同居理由

		(%)								
		じ 遠 く に 住 む 必 要 性 を 感 ず る	住 宅 費 を 節 約 す る た め	食 事 や 光 熱 費 を 節 約 す る た め	子 育 て の 支 援 を 受 け る た め	親 が 好 き だ か ら	親 を 介 護 す る た め	家 事 を 分 担 す る た め	そ の 他	無 回 答
全	体 (n=979)	58.6	26.5	24.8	17.8	14.5	9.3	5.5	7.2	8.5
男	性 (n=447)	58.8	32.0	29.8	13.9	8.5	8.7	5.4	5.8	6.5
女	性 (n=532)	58.5	21.8	20.7	21.1	19.5	9.8	5.6	8.3	10.2

性・年代別にみると（図表 4-3-2）、「遠くに住む必要性を感じないから」「住宅費を節約するため」「食事や光熱費を節約するため」などは、男女とも若い年代に多くあげられている。特に、「食事や光熱費を節約するため」は、男性の 20 歳代（20～24 歳 31.6%、25～29 歳 33.6%）と女性の 20～24 歳（33.7%）で 3 割を上回っている。

また、「子育ての支援を受けるため」は男性の 30 歳代と女性の 30 歳以上で、「親を介護するため」は、男性の 35 歳以上と女性の 40～44 歳で、それぞれ他の年代より多くあげられている。

図表 4-3-2 親との同居理由（性・年代別）

(%)

			じ 遠 く に 住 む 必 要 性 を 感 ず く た ら	住 宅 費 を 節 約 す る た め	食 事 や 光 熱 費 を 節 約 す る た め	子 育 て の 支 援 を 受 け る た め	親 が 好 き だ か ら	親 を 介 護 す る た め	家 事 を 分 担 す る た め	そ の 他	無 回 答
全	体	(n=5,547)	53.2	22.2	19.0	18.2	14.7	9.9	4.6	6.2	12.6
男 性	20～24 歳	(n=299)	61.6	28.6	31.6	1.2	11.7	2.6	4.6	3.0	11.1
	25～29 歳	(n=282)	58.5	32.8	33.6	10.0	11.6	3.5	4.8	1.6	13.2
	30～34 歳	(n=413)	50.6	25.0	20.1	24.4	9.2	6.6	3.5	4.6	12.8
	35～39 歳	(n=547)	48.3	20.2	16.5	18.8	9.0	14.7	4.4	3.7	13.8
	40～44 歳	(n=652)	51.0	15.3	14.4	15.0	8.4	16.1	3.8	8.3	14.6
女 性	20～24 歳	(n=413)	66.9	32.3	33.7	5.0	22.2	2.4	5.1	2.4	10.0
	25～29 歳	(n=508)	61.0	28.7	24.7	14.4	25.8	3.3	6.6	5.5	12.3
	30～34 歳	(n=625)	56.8	23.7	19.5	25.3	23.6	9.0	6.4	5.4	11.2
	35～39 歳	(n=821)	47.4	18.6	13.6	23.7	14.0	8.6	4.8	8.5	15.6
	40～44 歳	(n=914)	47.5	14.3	8.5	23.6	11.3	18.0	2.7	9.1	10.4

性・地域別にみると（図表 4-3-3）、「遠くに住む必要性を感じないから」は、相楽東部の男性で 61.6% と他の層より多くあげられている。また、「住宅費を節約するため」は相楽東部の女性（31.6%）で、「食事や光熱費を節約するため」は相楽東部の男女（男性 27.5%、女性 30.3%）で、それぞれ 3 割前後となっている。

「子育ての支援を受けるため」は、中丹の女性で 24.8%である。

図表 4-3-3 親との同居理由（性・地域別）

(%)

			遠くに 住む 必要 性 を 感 じ な い か ら	住 宅 費 を 節 約 す る た め	食 事 や 光 熱 費 を 節 約 す る た め	子 育 て の 支 援 を 受 け る た め	親 が 好 き だ か ら	親 を 介 護 す る た め	家 事 を 分 担 す る た め	そ の 他	無 回 答
	全 体 (n=5,547)		53.2	22.2	19.0	18.2	14.7	9.9	4.6	6.2	12.6
男 性	京 都 市 (n=543)		49.5	21.4	19.9	14.6	8.7	10.6	4.0	4.9	13.5
	丹 後 (n=326)		55.4	27.2	25.5	17.8	6.8	12.4	4.2	5.8	11.5
	中 丹 (n=183)		55.3	20.6	17.7	19.4	9.2	13.1	5.8	4.8	15.9
	南 丹 (n=210)		56.8	26.0	23.5	13.4	10.3	9.1	4.1	2.8	15.3
	乙 訓 (n=201)		57.4	25.7	23.3	14.8	9.1	11.1	8.0	5.2	10.2
	学 研 都 市 (n=194)		54.3	22.4	21.9	22.2	9.4	8.0	3.4	5.8	11.1
	相 楽 東 部 (n=137)		61.6	26.4	27.5	11.6	6.8	12.4	8.5	7.3	6.4
	山 城 北 (n=393)		54.8	20.9	19.7	12.9	13.1	10.4	2.6	5.7	14.5
女 性	京 都 市 (n=904)		55.3	23.3	18.9	19.6	19.8	8.7	5.3	6.6	11.2
	丹 後 (n=397)		54.4	21.9	15.3	21.6	9.6	9.2	7.3	10.5	9.7
	中 丹 (n=281)		44.1	20.6	16.8	24.8	13.4	13.1	5.2	8.7	16.4
	南 丹 (n=299)		48.3	25.2	20.4	22.9	12.9	8.3	5.7	8.9	15.2
	乙 訓 (n=307)		53.5	18.9	16.9	18.5	19.5	12.2	3.3	8.9	9.8
	学 研 都 市 (n=312)		54.1	15.8	13.3	21.7	18.3	7.9	3.0	7.5	12.5
	相 楽 東 部 (n=206)		58.1	31.6	30.3	16.5	18.3	9.1	7.4	3.9	6.9
	山 城 北 (n=557)		55.6	19.3	15.9	18.8	17.2	10.1	3.8	4.7	13.8

性・就労状況別にみると（図表 4-3-4）、「遠くに住む必要性を感じないから」は、男女とも学生（男性 62.1%、女性 71.8%）に、特に多くあげられている。「住宅費を節約するため」と「食事や光熱費を節約するため」は、男性の非正規雇用者（住宅費 33.0%、食事等 34.0%）と学生以外のその無職（同 40.0%、39.5%）で、他の層より多い。

また、女性の正規雇用者では「子育ての支援を受けるため」（23.8%）が、「親が好きだから」は学生以外のその無職（20.4%）で、それぞれやや多くあげられている。

図表 4-3-4 親との同居理由（性・就労状況別）

(%)

		遠くに 住む 必要 性 を 感 じ な い か ら	住 宅 費 を 節 約 す る た め	食 事 や 光 熱 費 を 節 約 す る た め	子 育 て の 支 援 を 受 け る た め	親 が 好 き だ か ら	親 を 介 護 す る た め	家 事 を 分 担 す る た め	そ の 他	無 回 答
全	体 (n=5,547)	53.2	22.2	19.0	18.2	14.7	9.9	4.6	6.2	12.6
男 性	正 規 雇 用 (n=1,314)	51.3	19.5	16.6	19.9	9.4	11.8	3.5	3.9	13.5
	非 正 規 雇 用 (n=312)	56.0	33.0	34.0	4.1	9.0	8.2	5.8	1.8	11.7
	そ の 他 有 職 (n=270)	54.0	12.9	10.7	16.9	7.8	11.6	3.3	9.7	15.4
	学 生 (n=151)	62.1	24.6	28.1	1.8	14.2	3.7	5.3	2.6	13.0
	そ の 他 無 職 (n=137)	47.2	40.0	39.5	7.5	9.6	9.5	7.6	15.2	9.8
女 性	正 規 雇 用 (n=1,052)	56.1	28.3	24.2	23.8	19.6	8.3	5.9	5.2	11.4
	非 正 規 雇 用 (n=1,214)	50.0	21.1	16.5	19.3	16.3	10.8	4.9	8.2	12.5
	そ の 他 有 職 (n=231)	52.9	14.9	10.3	15.5	15.6	9.8	4.9	5.4	18.1
	学 生 (n=164)	71.8	19.8	19.7	1.8	15.4	-	1.6	4.1	8.4
	そ の 他 無 職 (n=611)	53.6	15.5	11.8	22.1	20.4	11.7	4.0	7.8	11.1

性・婚姻状況別にみると（図表 4-3-5）、男女とも未婚者では「遠くに住む必要性を感じないから」（男性 58.8%、女性 65.4%）、「住宅費を節約するため」（同 36.9%、40.1%）、「食事や光熱費を節約するため」（同 39.2%、37.0%）などが多くあげられている。また、女性の未婚者では、「親が好きだから」が 24.7%と、他の層より多い。

一方、男女とも既婚者では「子育ての支援を受けるため」（男性 26.4%、女性 31.4%）が 3 割前後となっている。

図表 4-3-5 親との同居理由（性・婚姻状況別）

(%)

			遠くに住む 必要性を感 じないから	住宅費を 節約するた め	食事や光 熱費を節約 する	子育ての 支援を受け る	親が好 きだから	親を介 護するた め	家事を分 担するた め	そ の 他	無 回 答
全	体	(n=5,547)	 53.2	 22.2	 19.0	 18.2	 14.7	 9.9	 4.6	 6.2	 12.6
男	未 婚	(n=1,009)	 58.8	 36.9	 39.2	 1.4	 12.2	 6.9	 5.5	 4.3	 10.9
性	既 婚	(n=1,188)	 47.6	 10.5	 5.8	 26.4	 7.4	 13.5	 3.1	 5.6	 15.3
女	未 婚	(n=1,191)	 65.4	 40.1	 37.0	 1.4	 24.7	 4.4	 9.0	 3.6	 8.5
性	既 婚	(n=2,087)	 47.2	 10.7	 6.2	 31.4	 14.1	 12.6	 2.4	 8.8	 14.2

性・年収別にみると（図表 4-3-6）、「住宅費を節約するため」と「食事や光熱費を節約するため」は、男女とも年収の低い層に多くあげられている。一方、「子育ての支援を受けるため」は、年収の高い層に多くあげられる傾向がある。

図表 4-3-6 親との同居理由（性・年収別）

(%)

			食事や光熱費を節約するため	住宅費を節約するため	家事を分担するため	子育ての支援を受けるため	親を介護するため	親が好きだから	じ遠くに住む必要性を感じないから	その他	無回答
全	体 (n=5,547)		19.0	22.2	4.6	18.2	9.9	14.7	53.2	6.2	12.6
男 性	収入なし (n=167)		32.6	32.3	8.6	4.9	7.3	7.9	50.5	12.0	14.9
	100万円未満 (n=212)		41.2	35.9	9.8	4.5	8.0	17.6	56.3	3.8	7.9
	100万円～200万円未満 (n=210)		42.4	32.7	3.9	4.3	2.2	11.9	53.5	5.6	10.7
	200万円～300万円未満 (n=381)		23.2	29.8	3.1	8.2	12.8	8.1	53.5	5.0	11.4
	300万円～400万円未満 (n=440)		16.5	21.9	3.4	17.5	12.9	7.7	53.5	4.2	15.9
	400万円～600万円未満 (n=544)		9.5	12.5	2.4	25.2	10.5	10.3	54.0	3.5	13.8
	600万円～800万円未満 (n=147)		6.6	7.6	2.7	27.6	16.2	6.0	39.8	2.9	17.7
	800万円～1,000万円未満 (n=37)		5.7	10.4	5.2	14.9	4.6	8.2	59.8	9.6	9.9
	1,000万円以上 (n=29)		8.7	8.7	3.1	20.0	19.3	0.6	53.2	7.8	3.1
女 性	収入なし (n=662)		12.4	17.0	2.8	21.3	10.2	18.2	52.8	7.6	13.3
	100万円未満 (n=739)		12.8	15.1	5.0	17.0	10.0	15.6	52.9	9.1	13.2
	100万円～200万円未満 (n=718)		23.5	28.3	5.6	15.9	9.1	17.0	54.2	6.8	10.9
	200万円～300万円未満 (n=527)		25.0	28.7	5.1	18.3	8.2	17.5	53.9	4.5	13.0
	300万円～400万円未満 (n=281)		19.8	24.5	8.0	21.7	6.6	23.9	60.8	3.9	8.9
	400万円～600万円未満 (n=245)		16.8	22.6	4.4	41.8	11.7	19.8	49.1	6.2	12.3
	600万円～800万円未満 (n=30)		0.8	8.7	—	22.7	30.6	4.0	42.7	15.1	—
	800万円～1,000万円未満 (n=6)		—	—	—	1.5	—	46.7	67.5	10.6	20.3
	1,000万円以上 (n=5)		—	—	—	32.0	—	32.0	68.0	—	—

(4) 親の理想の居住地

【全員の方にお聞きします。】

問 4 5 現在の同別居やあなたご自身の未婚にかかわらず、親がどれくらいの距離に住んでいるのがよいと思いますか。「a) あなたの父親」～「d) 配偶者の母親」のそれぞれについて、あてはまるものをそれぞれ1つだけお選びください。

図表 4-4-1

<自分の父>		同じ建物内	同じ敷地内の別棟	15分未満	15～30分未満	30～60分未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3時間以上	該当する親がない	無回答
全体	(n=7,593)	6.9	4.5	17.5	21.0	15.9	8.7	3.0	2.8	14.5	5.2
男性	(n=2,996)	7.9	5.3	13.7	17.0	18.1	11.2	3.8	3.3	14.2	5.6
女性	(n=4,519)	6.2	4.0	20.2	23.7	14.5	7.2	2.4	2.5	14.5	4.8

<自分の母>		同じ建物内	同じ敷地内の別棟	15分未満	15～30分未満	30～60分未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3時間以上	該当する親がない	無回答
全体	(n=7,593)	8.5	5.5	21.1	23.5	16.8	9.3	2.8	2.5	5.3	4.7
男性	(n=2,996)	9.1	5.8	16.1	19.3	19.2	12.0	3.8	3.5	5.6	5.6
女性	(n=4,519)	8.1	5.2	24.4	26.3	15.4	7.6	2.1	1.8	5.2	4.0

<配偶者の父>		同じ建物内	同じ敷地内の別棟	15分未満	15～30分未満	30～60分未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3時間以上	該当する親がない	無回答
全体	(n=4,357)	1.3	3.1	15.8	20.7	18.1	11.2	3.5	5.0	16.9	4.5
男性	(n=1,591)	1.1	2.2	20.0	24.9	19.4	9.5	2.2	2.1	14.4	4.3
女性	(n=2,733)	1.5	3.6	13.4	18.3	17.3	12.2	4.3	6.7	18.2	4.5

<配偶者の母>		同じ建物内	同じ敷地内の別棟	15分未満	15～30分未満	30～60分未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3時間以上	該当する親がない	無回答
全体	(n=4,357)	1.6	4.1	18.8	23.3	20.1	12.1	3.8	5.9	6.9	3.5
男性	(n=1,591)	1.1	3.2	22.9	28.2	19.6	10.2	2.4	2.6	6.3	3.4
女性	(n=2,733)	1.7	4.6	16.3	20.5	20.3	13.3	4.7	7.8	7.2	3.5

現在の状況にかかわらず、親との理想の居住地の距離感を聞いた（図表 4-4-1）。

自分の父親は、「同じ建物内」が 6.9%で、「同じ敷地内の別棟」（4.5%）を合わせると、『同居』がよいという者は 11.4%である。「15分未満」（17.5%）と「15～30分未満」（21.0%）を合わせた『近居』（38.5%）は 4 割近く、片道 30 分以上の距離に居住する『別居』（30.4%）がよいという者は 3 割となっている。

自分の母親は、『同居』が 14.0%、『近居』は 44.6%で、片道 30 分以上の距離に居住する『別居』を希望する者は 31.4%である。

配偶者の父は、『同居』が 4.4%、『近居』は 36.5%で、4 割近くが片道 30 分以上の距離に居住する『別居』（37.8%）がよいと回答している。

配偶者の母は、『同居』5.7%、『近居』は 42.1%で、4 割以上が片道 30 分以上の距離に居住する『別居』（41.9%）を希望している。

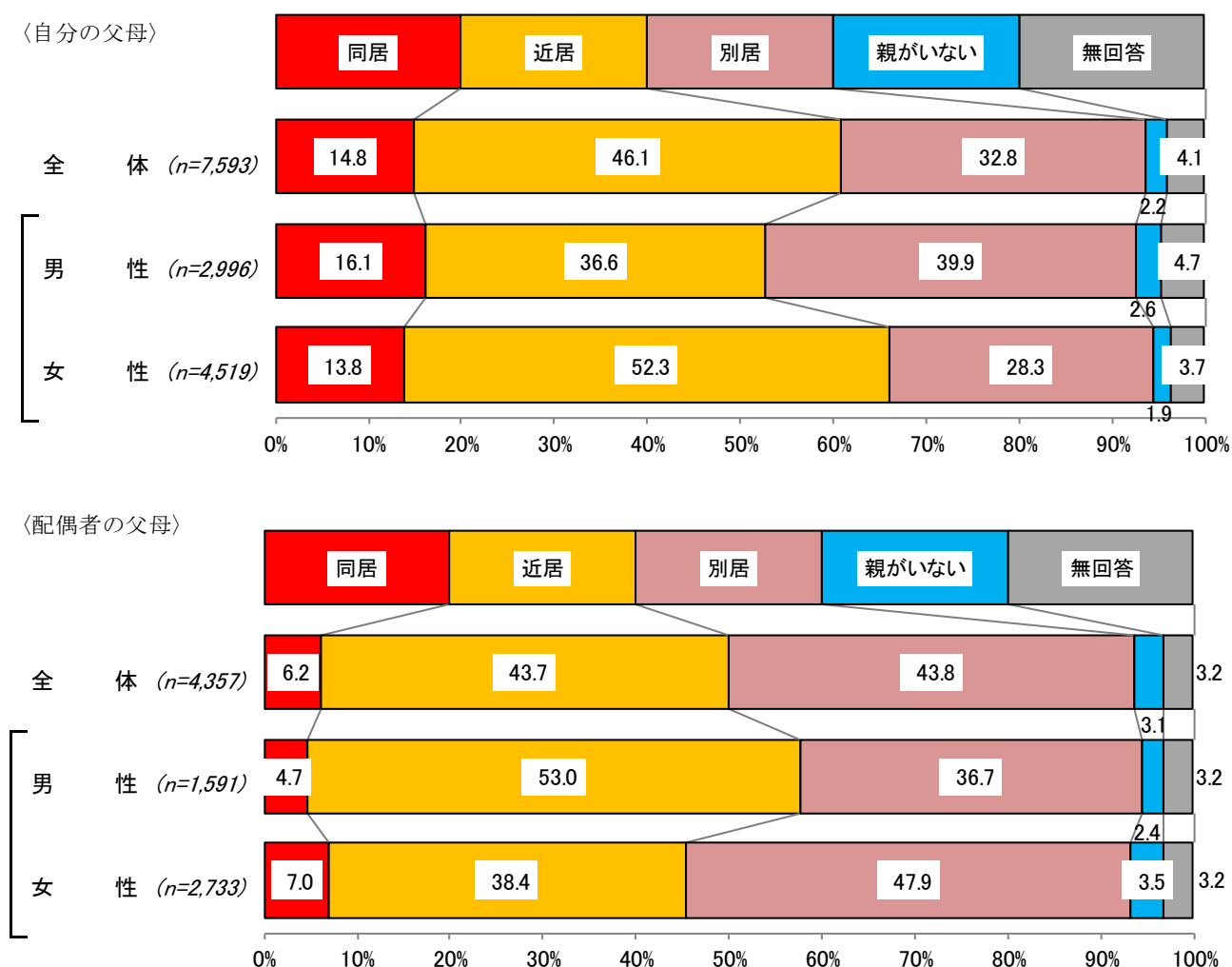
自分の父母と配偶者の父母にわけて、理想の居住地をまとめたところ、自分の父母のいずれかが「同じ建物内」もしくは「同じ敷地内の別棟」に『同居』を希望する者は14.8%、片道30分未満の距離での『近居』を希望する者は46.1%、片道30分以上の距離での『別居』希望者は32.8%である（図表4-4-2・上）。

男女別にみると（図表4-4-2・上）、自分の父母との『近居』（男性36.6%、女性52.3%）は男性を女性が16ポイント上回っている。『別居』（同39.9%、28.3%）がよいという者は男性の方が多い。

一方、配偶者の父母の場合は（図表4-4-2・下）、『同居』が6.2%、『近居』が43.7%、『別居』が43.8%となっている。

男女別にみると（図表4-4-2・下）、『近居』（男性53.0%、女性38.4%）の希望は男性が女性を15ポイント上回っているのに対して、配偶者の親との『別居』（同36.7%、47.9%）の希望は女性の方が多くなっている。

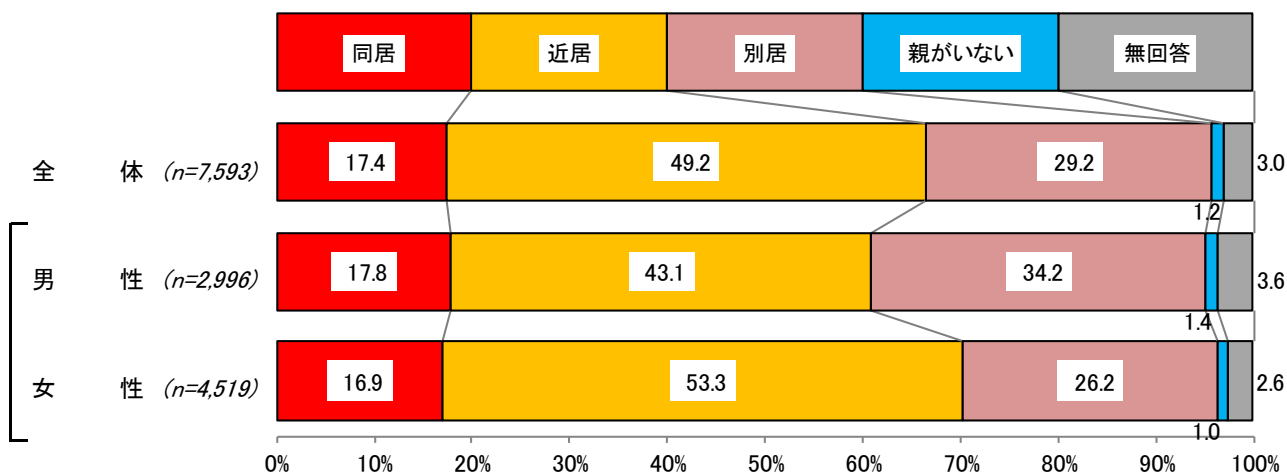
図表 4-4-2 親の理想の居住地



さらに自分と配偶者の親をまとめて、いずれかの親との同別居の理想の状況をまとめたところ（図表 4-4-3）、『同居』は 17.4%、『近居』は 49.2%、『別居』は 29.2%である。

男女別にみても（図表 4-4-3）、『近居』（男性 43.1%、女性 53.3%）の希望は女性が男性を 10 ポイント上回っているのに対して、『別居』（同 34.2%、26.2%）の希望は、男性が女性を 8 ポイント上回っている。

図表 4-4-3 親の理想の居住地

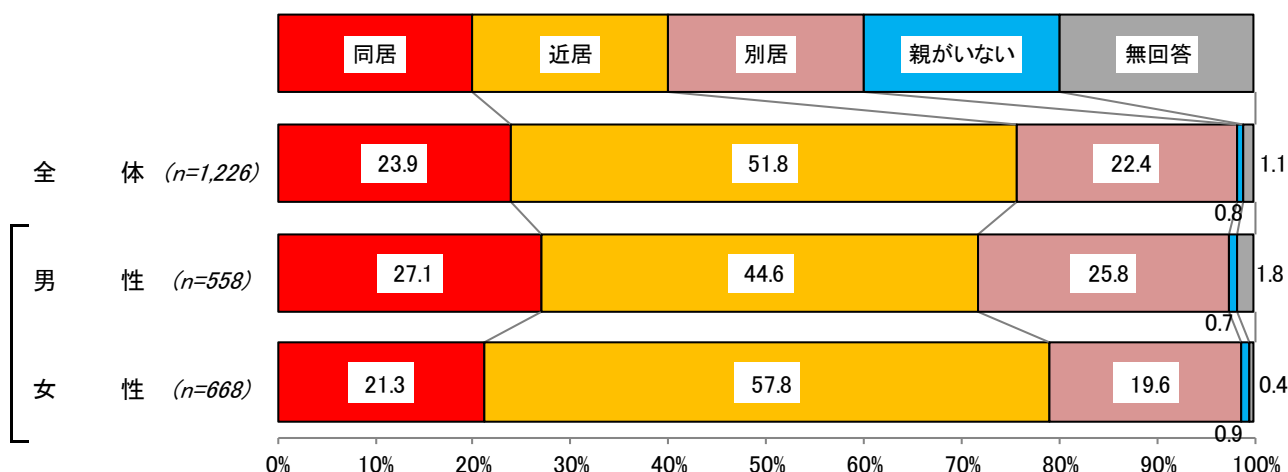


〈参考：全国調査〉

全国調査では、2 割以上が『同居』（23.9%）を希望しており、府民調査より多くなっている。

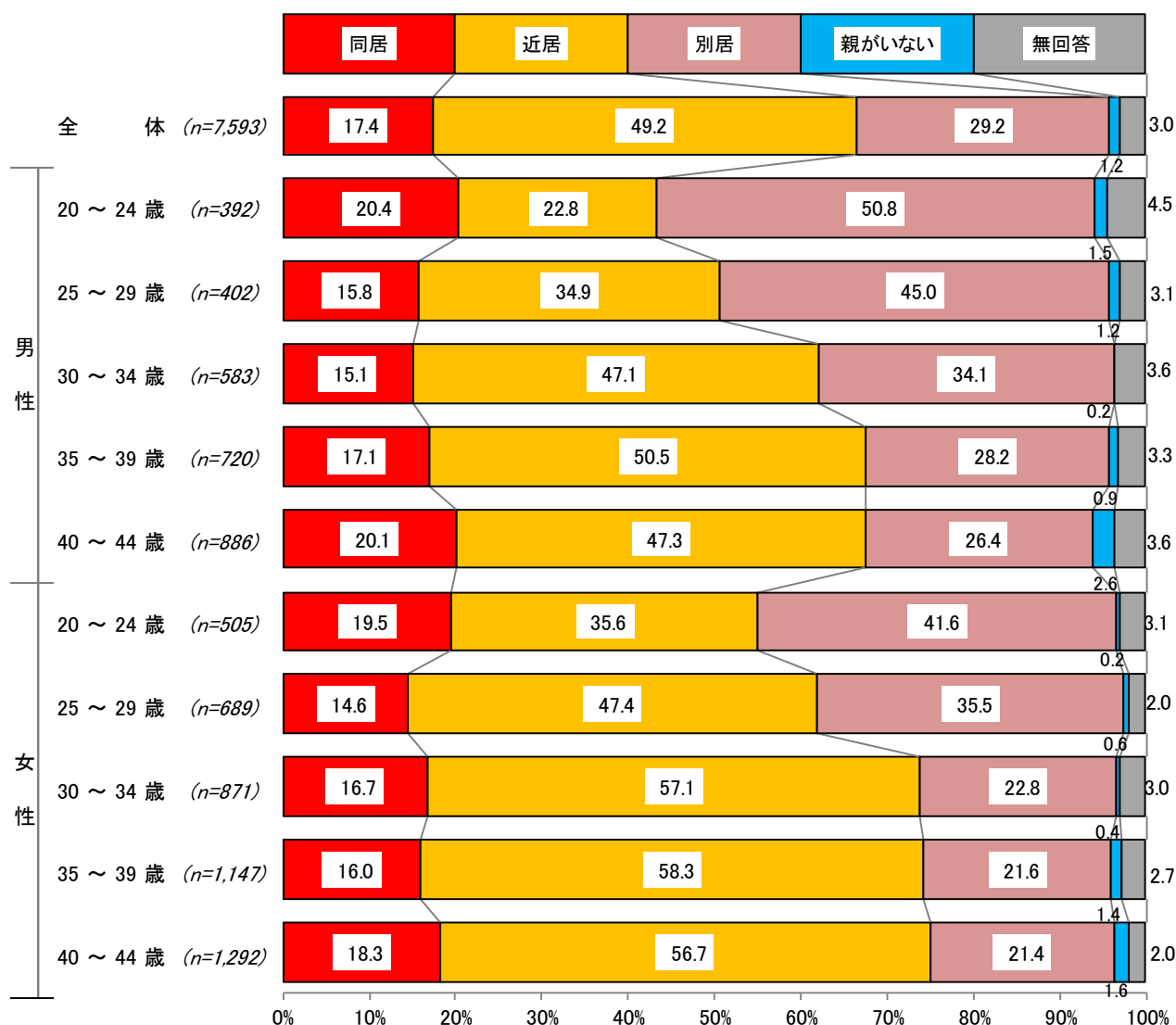
男女別にみると、女性より男性の方が『同居』（男性 27.1%、女性 21.3%）を希望する者が多く、府民調査よりも男女差が大きい。『近居』（同 44.6%、57.8%）の希望は女性が男性を 13 ポイント上回っている。

参考 4-4 親の理想の居住地



性・年代別にみると（図表 4-4-5）、男女とも年代が高い層ほど『近居』を希望し、年代が若い層ほど『別居』を希望している。

図表 4-4-5 親の理想の居住地（性・年代別）

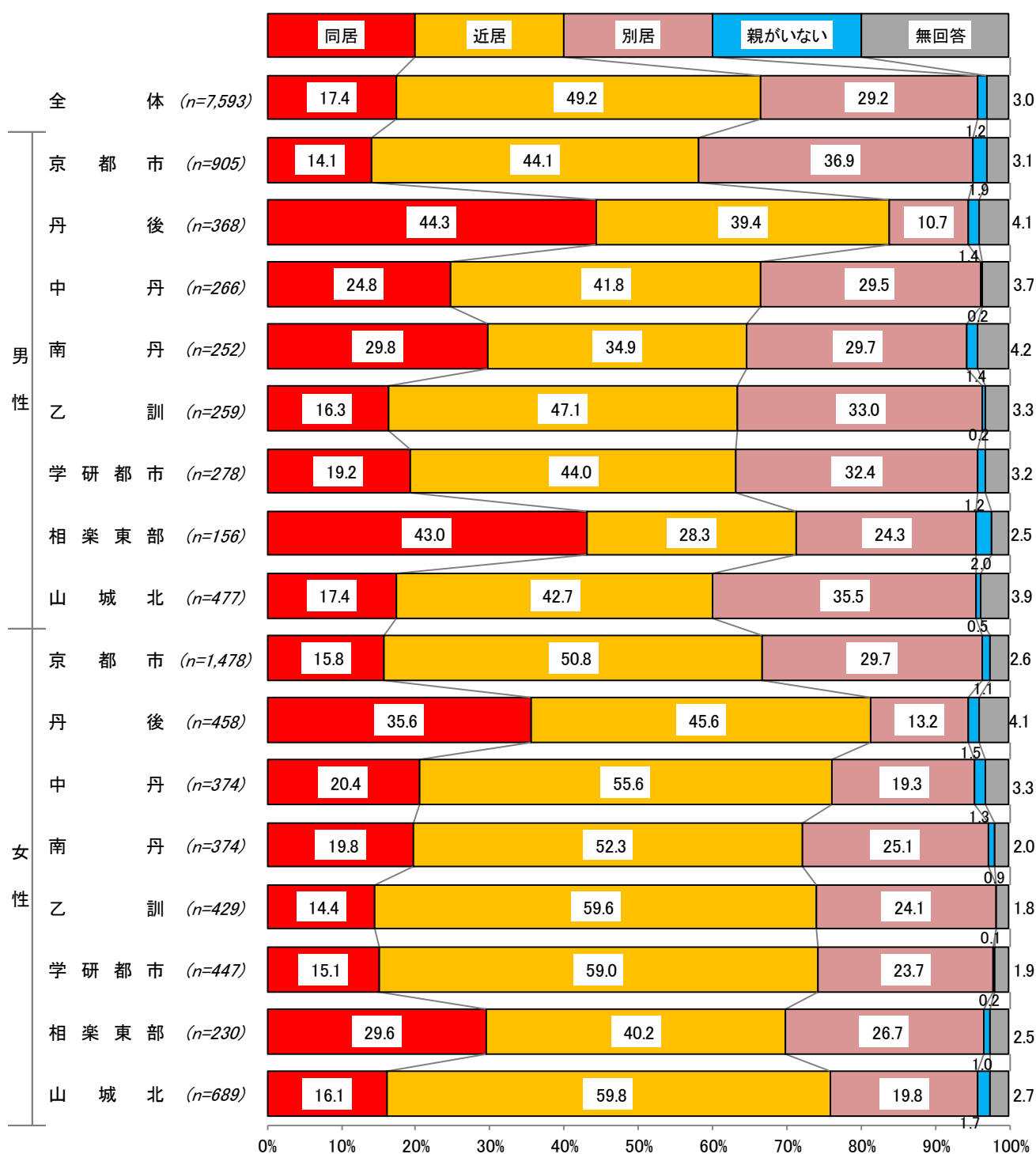


性・地域別にみると(図表 4-4-6)、現在同居者の多い丹後地域で、『同居』(男性 44.3%、女性 35.6%)を理想とする者が、他の地域よりも多い。また、現在親との同居者が多数を占める相楽東部地域で『同居』(同 43.0%、29.6%)を理想とする者は、男性が女性を 13 ポイント上回っている。

男女とも 4 割近くが『別居』している京都市居住者では、男性は 36.9%が『別居』を理想としているが、女性では 29.7%で、半数(50.8%)は『近居』を希望している。

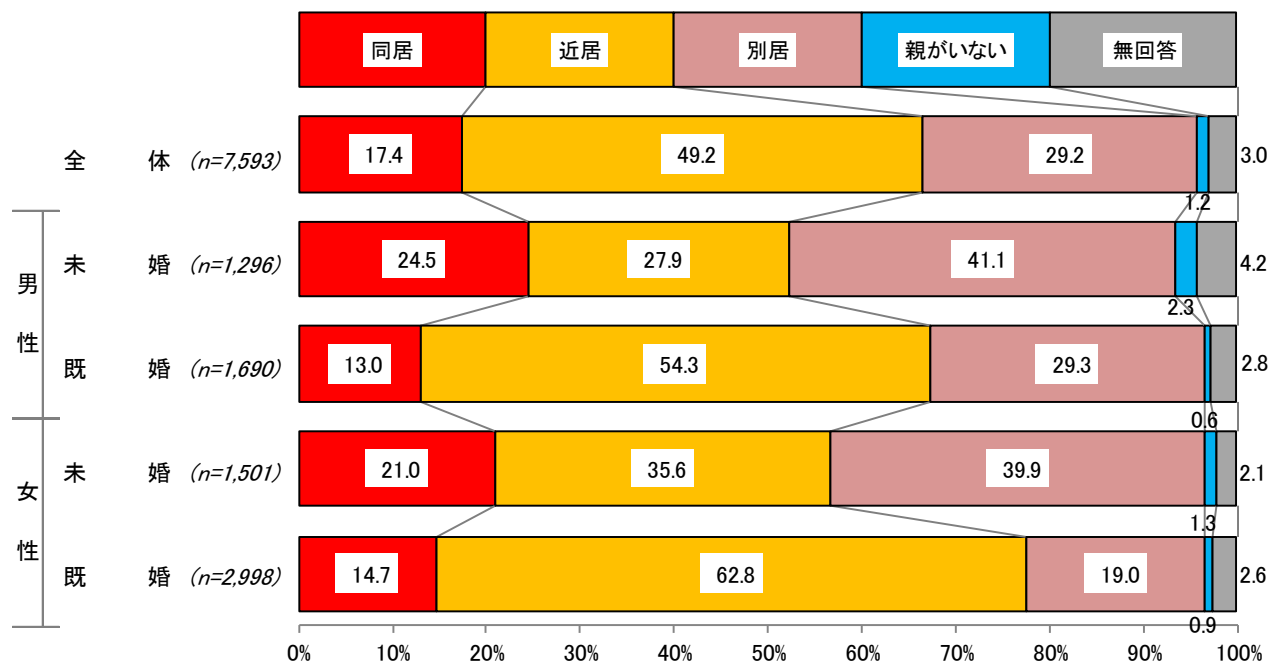
そのほか、女性の山城北、乙訓、学研都市居住者も、『近居』(山城北 59.8%、乙訓 59.6%、学研都市 59.0%)を 6 割が希望し、他の地域より多くなっている。

図表 4-4-6 親の理想の居住地(性・地域別)



性・婚姻状況別にみると（図表 4-4-7）、『近居』を理想とする者は女性の既婚者（62.8%）で 6 割を上回って、特に多くなっている。これに対して、未婚者では『別居』（男性 41.1%、女性 39.9%）を希望する者が 4 割前後となっている。

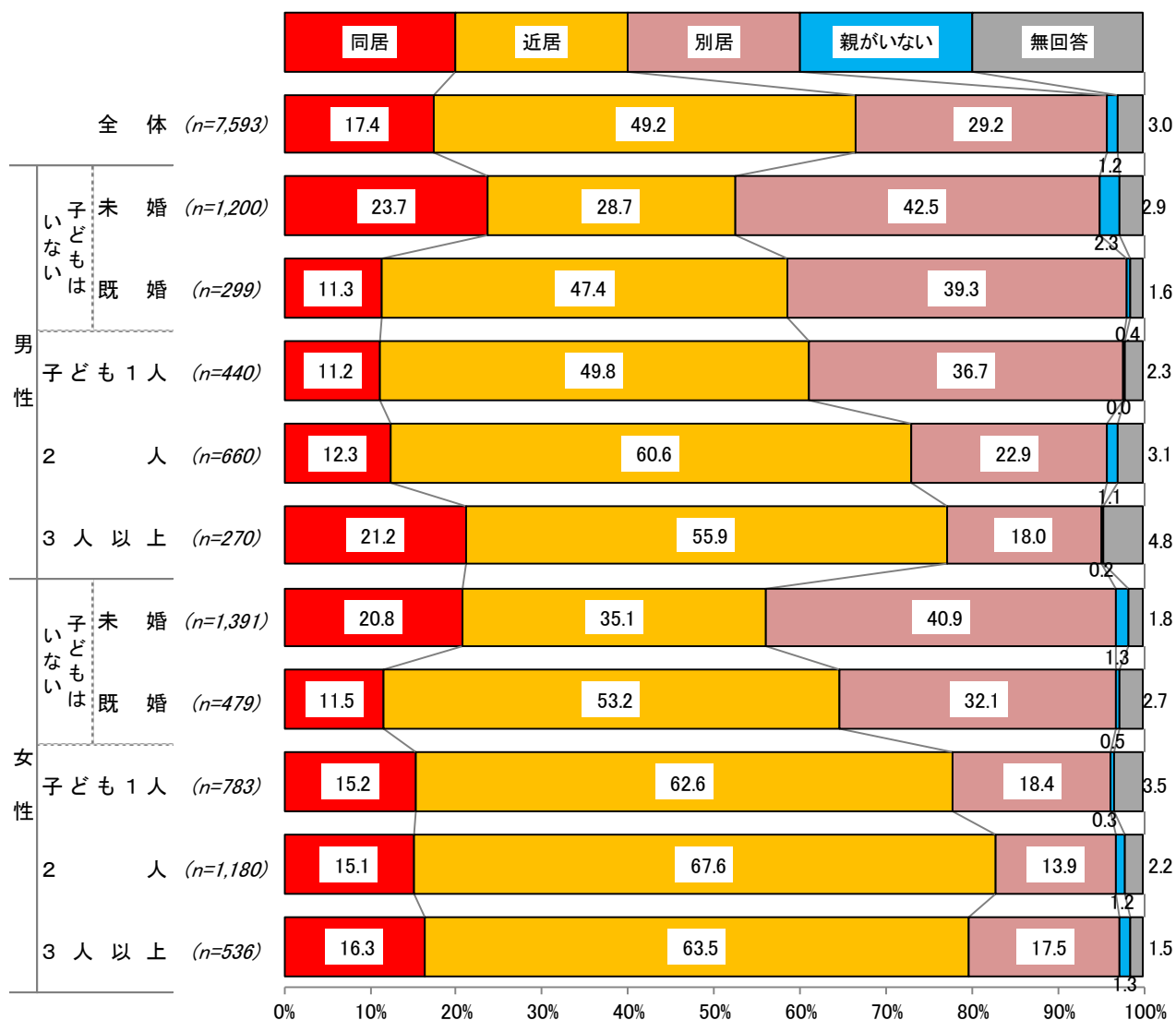
図表 4-4-7 親の理想の居住地（性・婚姻状況別）



性・子どもの人数別にみると（図表 4-4-8）、男性では子どもの人数が多い者ほど『同居』を希望する傾向があり、3人以上になると2割以上が『同居』（21.2%）を希望している。

女性では、子どものいる既婚者は、6割以上が『近居』を理想としている。

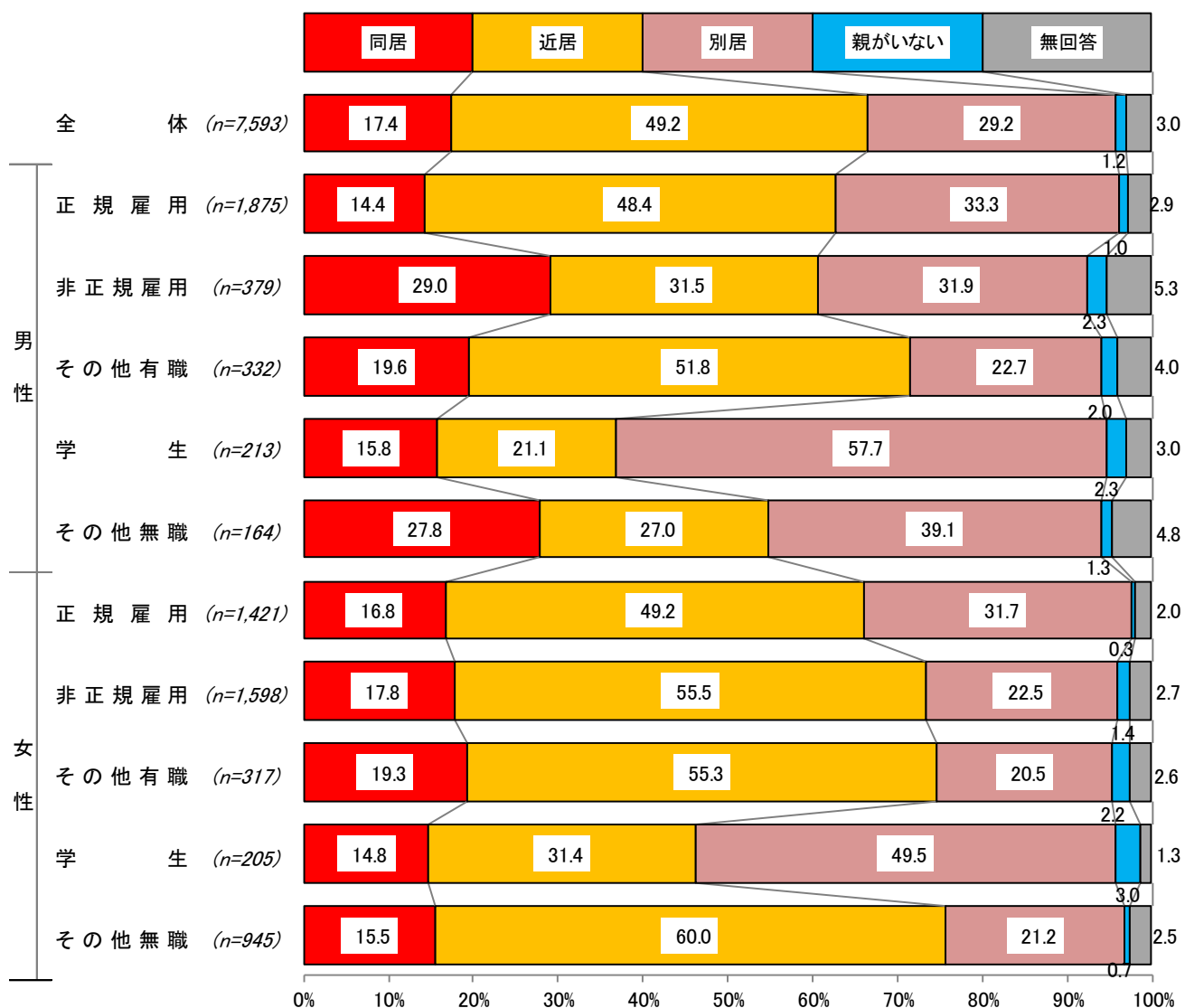
図表 4-4-8 親の理想の居住地（性・子どもの人数別）



性・就労状況別にみると（図表 4-4-9）、現在は同居が多数を占める学生に、『別居』（男性 57.7%、女性 49.5%）を希望する者が多くなっている。親との同居者の多い、男性の非正規雇用者と学生以外のその他無職層では、『近居』（非正規 31.5%、その他無職 27.0%）と『別居』（同 31.9%、39.1%）に回答がわかれている。

学生以外の女性は、就労状況による差が小さく、『近居』を理想とする者が多い。

図表 4-4-9 親の理想の居住地（性・就労状況別）



共働き状況別では、妻が役員・自営業の共働きで『別居』（27.9%）を理想とする者が3割近い（図表4-4-10）。

図表 4-4-10 親の理想の居住地（共働き状況別）

